

市立函館博物館報サラニップ
SARANIP

No.59 2020.4.23

—収蔵資料紹介—

船旗（幸力丸）

(資料番号：H30-0611)

今回紹介する資料は、函館の商人武富平作の手船「幸力丸」の船旗です。この船旗は木箱に収められており、木箱の蓋には「明治五壬（申脱カ） 御印入」と墨書され、左側面には「北海道箱館武富平作手船 ⊕ 幸力丸」と墨書されています。

木箱の中には、「幸力丸」と書かれた船旗の他に、「明治五年壬申二月 武富氏 正一位稻荷社」と墨書された旗が2点、吹き流し、竿、麻紐、寛永通宝が各1点ずつ収められています。

船旗、旗、吹き流しの寸法は以下のとおりです。

- ・船旗 — 縦2460×横640mm（吊布、飾り含まず）
- ・旗 — 縦970×横320mm（吊布含まず）
- ・吹き流し — 縦2810×横370mm

この船旗以外に武富の手船「天力丸」の旗もあります。こちらも木箱に収められており、左側面には「肥前佐嘉郡 ⊕ 武富平作手船」と墨書されています。こちらには、「天力丸」と染められた大小2点の船旗、赤・白・黄色の吹き流しが各1点ずつ、「御新造祝 酒盃 式 天力丸様 間宮小兵衛」と墨書された包紙が1点収められています。

天力丸の船旗にある包紙の内容から、二つの船旗ともに武富平作の手船が新造された際に詠えたものと思われる。資料の状態も良く、普段使用していたという様子は伺えず、進水式などのお披露目の際に使用されたものと思われる。

幸力丸・天力丸の詳細については今のところ分かりませんが、函館市中央図書館には武富平作が記した日記類が残されています。（例えば、慶応3年から明治25年まで記された「永代日記帳」資料番号1810633519などがあります）これらの日記類を丹念に見ていくと両船についても何か分かるのかもしれませんが。

この船旗はもともとは図書館所蔵のもので、恐らく、武富の日記類などとともにこれらの船旗も一群を成していたものと思われ、他にも武富に関する資料があったのかもしれませんが。資料の内容や形態により分類し、分離して保管することは状況により仕方がない場合があります。しかし、受入時の資料群の全体像を記録して残しておくことによって、資料の持つ意味が大きく変わることもあります。

武富についても簡単に触れておきます。武富は、天力丸の箱書きから分かるように肥後（佐賀）の出身です。万延元年に佐賀藩が伊万里焼などを販売する目的で箱館に出店し、そこに武富が派遣されそのまま函館に居住し商売を続けたようです。

蛇足ですが、かつて二代目武富平作の住居は博物館の裏側にあり、いつの頃からか「山小屋」という喫茶店になり、昭和の終わり頃まで営業していたようです。（保科 智治）



船旗（幸力丸）
 木箱蓋の墨書
 木箱側面の墨書

— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※令和2年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	450件	1,710点
地質鉱物	2,040件	2,930点
植物	10,340件	10,680点
動物	10,680件	22,250点
考古	10,130件	584,850点
歴史	7,410件	22,930点
民俗	7,410件	21,320点
民族	7,180件	13,630点
美術工芸	6,590件	7,780点
合計	62,230件	688,080点

※一部の寄託資料を含みます。

※一括は1件1点と計算しています。

※10件以下は四捨五入しています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施しているため、収蔵点数が変動しています。

令和元年度 新収蔵資料

- 紙芝居、メリーゴーランド 他 124点
【函館市：函館市立はこだて幼稚園 寄贈】
- フラッグ（「棒二さんありがとう」） 2点
【函館市：函館朝市協同組合連合会 寄贈】
- ひな人形 1点
【函館市：函館市立はこだて幼稚園 移管】
- 昆虫標本 97点
【札幌市：藤本 洋子 寄贈】
- 潘連夫書 他 11点
【東京都杉並区：熊倉 百子 寄贈】
- おひょう漁図粉本 他 4点
【札幌市：児玉 建 寄贈】
- 伊藤郁子作品（「海底で」 他） 5点
【大阪市：岸田 卓郎 寄贈】
【札幌市：島谷 洋子 寄贈】
【川崎市：萬田 玲子 寄贈】
- 棒二森屋関係資料 14点
【函館市：小池田 清六 寄贈】
- 開拓使函館支庁管内之図 1点
【函館市：宗像 英明 寄贈】
- その他
首飾り（タマサイ） 1点
青函連絡船関係資料 13点
(敬称略)

資料保存

市立函館博物館では、昨年度に続き、収蔵庫の昆虫類モニタリング調査を実施しました。昆虫類モニタリングの実施は、ガス燻蒸（殺虫・殺カビ）を補完することを目的とし、当館が保管する文化財資料に加害する飛翔性昆虫、歩行性昆虫などについて、月毎に発生状況を調査し、その結果を踏まえ、収蔵庫の環境改善と、防虫・防カビ対策の実施も含めた再検討に役立てています。今年度は1階収蔵庫に加えて、第1展示室裏も実施しました。

前年及び当該年での診断結果を踏まえた、環境改善により、有害害虫の出現が減少しつつあります。また、モニタリングを踏まえた、防虫・防カビ対策を1階収蔵庫で実施しました。

— 普及（展覧会） —

企画展

■ 箱館戦争 終結150

令和元年（2019）は戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争が終結してから150年の節目の年でした。本企画展では、第2・第3展示室を会場に当館および函館市中央図書館の資料を中心に展示しました。通史展示ではなく、「描かれた箱館戦争」「記録された箱館戦争」「志士の遺墨」「箱館戦争に使われたモノ」というテーマを設けて展示しました。

期 間	令和元年6月12日(水)～ 9月22日(日)
開館日数	90日
後援・協力	公立はこだて未来大学
出品協力	函館市中央図書館
出品資料	箱館戦争図他194点
観覧者数	6,791名
関連事業	関連事業 展示解説3回、箱館戦争資料を見て触れて2回
担 当	保科

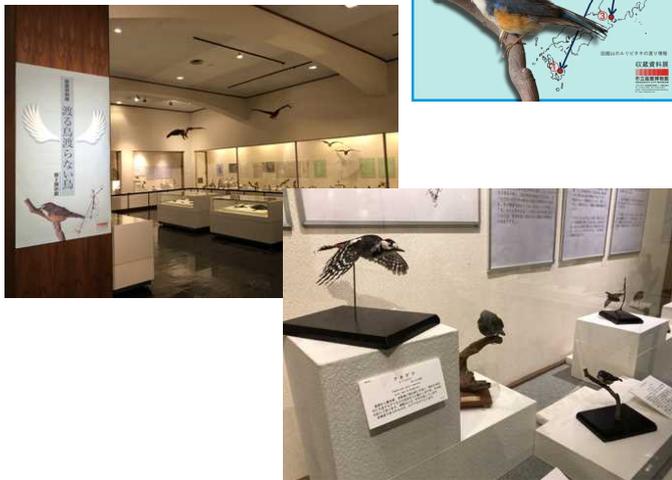


収蔵資料展

■ 渡る鳥渡らない鳥展

野鳥には、春と秋に、繁殖地と越冬地の間を定期的に移動する「渡る鳥（＝渡り鳥）」と、一年中同じ場所に留まる「渡らない鳥（＝留鳥）」がいます。今回の展示は、季節ごとに出現する野鳥の変化を「渡る渡らない」という視点で、展示しました。

期 間	令和元年10月8日(火)～
開館日数	開催中
出品協力	なし
出品資料	ルリビタキほか200点
関連事業	なし
担 当	佐藤(理)



■ 思い出の棒二森屋コーナー

平成31年(2019)1月31日で惜しまれながら閉店した老舗百貨店の棒二森屋から、催事用の法被や大食堂で使用されていた茶碗などが寄贈され、その一部を昭和・なつかしの暮らし展にコーナーを設けて展示しました。



ロビー展

■ 世界文化遺産推薦候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」PR展示 史跡大船・垣ノ島遺跡と世界遺産を目指す北海道・北東北の縄文遺跡群

令和元年7月30日に開催された国の文化審議会世界文化遺産部会で、「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産の国内推薦候補に正式に選定されたことをうけて、ロビー展を開催しました。

国内推薦候補決定のバナーを掲げ、史跡垣ノ島遺跡出土の大木式土器とレンガ台式土器や盛土遺構内側から出土した石器、石製品類と世界遺産のしくみや縄文文化を紹介するパネルを展示しました。

期 間	令和元年8月7日(水)～ 令和元年12月28日
出品協力	函館市文化財課
出品資料	垣ノ島遺跡出土土器ほか 30点
担 当	佐藤(智)

■ 世界文化遺産推薦候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」PR展示 函館の縄文—垣ノ島遺跡と戸井貝塚の出土品

令和元年12月25日、「戸井貝塚出土品」514点が函館市の有形文化財に指定されました。戸井貝塚は函館市浜町に所在する縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての貝塚で、出土した骨角器は、種類、数量、精巧さ、および保存状況が際立って優れていることが知られています。

今回の展示では、鹿角を用いた銚先や釣針等の漁撈具、鹿角や陸獣骨を用いたヘラ(骨ヘラ)や針、剥離具刺突具等の工具のほか、鯨骨で作られた儀礼用の鉦形骨器や青龍刀形骨器、さらに鹿角・海獣骨を用いた髪飾り、櫛、錘飾品、袋入りの刀子をメクラ孔の装飾によって模した製品、鳥骨を素材とした針入や儀杖・装身具・搬入土器などを展示しました。中でも鹿角製でメクラ孔により装飾された人形(角偶)は全国的にも出土例が少なく、観覧者の注目を浴びていました。

市指定文化財となった戸井貝塚出土品

期 間	令和2年1月7日(火)～
開館日数	開催中
出品協力	函館市文化財課
出品資料	垣ノ島遺跡・戸井貝塚出土 品244点
担 当	佐藤(智)



令和元年度展覧会開催日数・入館状況

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1～6/2 10/8～3/31	6/12～9/22	
開催日数	165日	90日	255日
有料入館者	3,547人	5,478人	9,025人
無料入館者	4,418人	1,313人	5,731人
入館者合計	7,965人	6,791人	14,756人

— 普及（講座） —

令和元年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講座名	開催期日	講師	参加/定員
1	旧函館博物館一号公開	5月25日(土)	—	212 / —
2	池のなかを見てみよう	7月26日(金)	外部講師 奥野・佐藤 理・尾崎	68 / 40
3	夏休み自由研究 「日本画でうちわづくり」	7月27日(土)	外部講師 奥野	12 / 10
4	函館公園活用講座	7月28日(日)	外部講師 尾崎	16 / 20
5	夏休み自由研究 「博物館子供探検隊」	7月31日(水)	保科	11 / 10

6	夏休み自由研究 「黒曜石で矢じりを作ろう」	8月2日(金)	外部講師 尾崎	14 / 15
7	箱館戦争見て触れて(1)	8月6日(火)	保科	1 / 10
8	夏休み自由研究「大森浜の貝 で標本箱を作ろう」	8月7日(水)	奥野・佐藤 藤理・尾崎	17 / 15
9	箱館戦争見て触れて(2)	8月13日(火)	保科	4 / 10
10	博物館旧1号館公開	8月18日(日)	—	310 / —
11	ソノシートで日本昔話を聞こう!	11月16日(土)	尾崎	0 / 20
12	忘れない! 函館大火	3月19日(土)	保科・ 尾崎	中止 / 20

計 665名



函館公園活用講座でレザークラフトに挑戦する子どもたち

【展示解説セミナー】

No.	開	講師	参加
1	展示解説セミナー	保科	54 / —
	企画展「箱館戦争終結150」		18 / —
			19 / —

計 91名

展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
日	4/1～6/2		3～ 11	6/12～9/22			9/23～ 10/7	10/8～11/3	4～ 11	11/12～3/1			3/2～ 20	21～ 31
ロビー					ロビー展 (8/7～)		「北海道・東北の縄文遺跡群」PR展示		担当:佐藤(智)	ロビー展(1/7～) 「函館の縄文」 担当:佐藤(智)				
第1展示室	収蔵資料展 「昭和・なつかしの暮らし」 担当:尾崎		展示替え	収蔵資料展 「昭和・なつかしの暮らし」 担当:尾崎			展示替え 防虫・防カビ 博物館実習		収蔵資料展 「昭和・なつかしの暮らし」 (棒二森屋コーナーを開設) 担当:尾崎			新型コロナウィルス感染症拡大防止のため休館		
第2展示室	収蔵資料展 「描かれたアイス」 担当:奥野			企画展「箱館戦争150」 情報ブース 箱館戦争 担当:保科					収蔵資料展 「渡る鳥渡らない鳥」 担当:佐藤(理)					
第3展示室	収蔵資料展 「箱館戦争150」 情報ブース 屋号展示 担当:保科								収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科					

【おもてなし講座等】

No.	講座名	開催期日	件数／参加数
1	展示解説	通 年	16件 370名
2	バックヤードツアー	通 年	8件 75名
3	見せます！お宝公開！	4/1～11/3の開催日	11件 132名
4	函館博物館見学	4/1～11/3の開催日	1件 21名

計 36件／598名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数

【特別講演会】

No.	講座名	開催期間	講師	参加
1	私たちのくらし アイヌのきもの	11月30日(土)	外部講師	41

※函館市北方民族資料館で開催

■ 連携講座

令和元年度（2019年度）の博物館講座では、函館公園を管理する函館市住宅都市施設公社と初めて連携した「函館公園活用講座」の他、公園内の「北海池」の水抜き清掃にあわせた「池の中を見てみよう」を開催しました。このうち「池の中を見てみよう」は大好評で、アメリカザリガニなど生息する生き物が外来種であることに参加者一同、驚いた様子でした。



協力機関等

函館市教育委員会文化財課、函館市住宅都市施設公社、今金町教育委員会、安積徹、渡辺知子、国立アイヌ民族博物館（順不同・敬称略）

— 調査・研究 —

調査

- 七飯町歴史館、森町教育委員会、木古内町教育委員会、福島町教育委員会、松前町教育委員会、北斗市教育委員会、八雲町郷土資料館（令和元年11月19日～22日）次年度企画展にかかる資料調査（佐藤（智））
- 北海道博物館収蔵庫調査（令和元年7月15日）（阿部）
- 洞爺湖町入江・高砂貝塚館、伊達市噴火湾文化研究所、史跡北黄金貝塚資料館、よいち水産博物館、スペースアップルよいち、札幌市埋蔵文化財調査センター、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館（令和元年11月26日～29日）次年度企画展にかかる資料調査（佐藤（智））
- 松前城資料館（令和2年2月5日）アイヌ絵にかかる聞き取り調査（奥野）
- 小樽市総合博物館運河館（令和2年3月21日）林家旧蔵画稿にかかる調査（奥野）

研究論文・コラム等

- 佐藤智雄「オリジナル フレーム切手セット『箱館戦争終結150周年』解説書」日本郵便株式会社 2019年8月9日販売開始
- 奥野進「アイヌ絵粉本考」『市立函館博物館研究紀要』30 市立函館博物館 2020（電子版）
- 阿部貴樹「市立函館博物館企画展 箱館戦争終結150に寄せて」（『函館碧血会だより』第20号 函館碧血会 2019年1月1日発行）
- 奥野進「鈴木旭先生の思い出」『会報』第41号 函館日口交流史研究会 2020年3月3日発行

【新聞掲載コラム】

- 北海道新聞（夕刊 みなみ風）掲載「学芸員レポート」
- ・奥野進「『箱館』の由来を考える」（令和元年8月23日）
- ・保科智治「松浦武四郎と高田屋嘉兵衛」（令和元年9月27日）
- ・保科智治「箱館戦争終結150年のロマン？」（令和2年1月31日）
- 【道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿】
- ・保科智治「箱館戦争終結150」
- ・奥野進「博物館活動を考える」
- ・佐藤理夫「渡る鳥渡らない鳥」

研究発表等

- 大韓民国国立釜山大学校人文韓国プラス事業団主催「第1回海外学者招聘フォーラム（令和元年6月28日）講師派遣（佐藤（智））」
- 函館市高齢者大学青柳校 企画展「箱館戦争終結150」（令和元年6月13日）講師派遣（佐藤（智））」
- 函館市立日新小学校「戸井の縄文文化について」（令和元年6月19日）講師派遣（佐藤（智））」
- 北斗市郷土資料館 ふるさと歴史講座「北前船と北海道」（令和2年1月30日）講師派遣（佐藤（智））」
- 函館市西部地域振興協議会「津軽海峡を渡る鳥たち」（令和2年2月19日）講師派遣（佐藤（理））」

印刷物発行

- 企画展『箱館戦争終結150』市立函館博物館2019 ※令和元年6月12日発行 42頁
- 『市立函館博物館研究紀要』30（電子版）市立函館博物館2020 ※令和2年3月31日発行

— 協力事業等 —

協力事業

【資料貸出】

- 市立函館博物館郷土資料館常設展示 本館所蔵、明治期の歴史・民俗資料等を展示
- 函館市北方民族資料常設展示 本館所蔵、アイヌ・北方民族資料等を展示（12月展示替え）
- 函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」 本館所蔵、挿し絵・彫塑等を展示
- 函館市北洋資料館常設展示 本館所蔵、北洋漁業関係資料を展示
- 函館市戸井西部総合センター展示コーナー 本館所蔵、戸井の板碑・土器・石器等を展示
- えさん小学校展示コーナー 本館所蔵、恵山地区出土の土器・石器等を展示
- 箱館奉行所常設展示（平成22年7月28日～） 本館所蔵「エンフィールド銃」他 計6点貸出
- 函館市縄文文化交流センター常設展示（平成28年4月1日～） 本館所蔵「ヤス」他 計154点貸出
- 函館市教育委員会主催「函館空港ギャラリー常設展示 函館縄文遺跡探訪—函館空港遺跡群と北の縄文文化—」（平成28年4月4日～） 本館所蔵「伊藤コレクション」他 計14点貸出
- ワークショップ「はこだてこうえん♪ひみつさが

しのおさんぽ」（函館市企画部、北海道教育大学函館校主催）市立函館博物館を会場として実施

- 新潟県埋蔵文化財センター企画展「海を渡ったヒスイ」（令和元年7月31日～12月25日） 本館所蔵「浜町A遺跡出土ヒスイ製太珠」他7点貸出
 - 函館市観光部観光誘致課「北前船資料展示」函館市役所本庁舎1階市民ホール（令和元年5月24日～6月20日）、函館アリーナ（令和元年10月1日～4日）、函館市中央図書館（令和元年10月24日～11月8日）、北海道渡島総合振興局1階ロビー（令和元年12月12日～24日） 本館所蔵「弁財船（模型）」1点貸出
 - 北海道立近代美術館 特別展「北海道151年のヴァンダーカンマー」展（令和元年12月24日～令和2年3月26日） 本館所蔵「オオカミウオ」他67点貸出
 - 国立アイヌ民族博物館 基本展示（令和元年2月13日～令和2年9月1日） 本館所蔵「草皮衣」他19点貸出
- 【収録・出演】
- FMいるか 収蔵資料展「箱館戦争150」展（平成31年4月13日）いるか号中継（保科）
 - NCV「屋号展示～屋号を知る・押す・歩く～」（令和元年5月12日）収録（保科）
 - FMいるか 企画展「箱館戦争終結150」（令和元年7月13日）いるか号中継（保科）
 - STV 函館市民ニュース「旧函館博物館1号公開」（令和元年6月1日）収録
 - HBC「箱館戦争終結150」（令和元年6月13日）収録（保科）
 - HTBニュース「池のなかを見てみよう」（令和元年7月26日）収録（阿部）
 - FMいるか「旧函館博物館1号公開・国立アイヌ民族博物館PR展示」（令和元年8月17日）いるか号中継（奥野）
 - FMいるか「箱館戦争終結150」（令和元年8月21日）「人ネットワーク」スタジオ収録（佐藤（智））」
 - STV 函館市民ニュース「函館市女性センター文化教養講座『はこだて探検隊③』バックヤード・ツアー」（令和元年9月21日）収録（保科・尾崎）
 - FMいるか 「はこだてカルチャーナイト」（令和元年9月27日）いるか号中継（尾崎）
 - NCV「函館凶鑑」（令和元年10月13日・20日）収録（佐藤（智））」
 - FMいるか 企画展「渡る鳥渡らない鳥」（令和元年11月20日）スタジオ収録（佐藤（理））」
 - NHKニュース「函館市戸井貝塚の出土品展示」

(令和2年1月12日)収録(佐藤(智))

■FMいるか「函館戸井貝塚の出土品」(令和2年1月24日)いるか号中継(佐藤(智))

■ぶらんとマガジン社「HO」vol.148(令和2年1月25日発売)「博物館で一日遊ぶ(市立函館博物館 函博コレクション物語)」取材協力

【会議出席等】

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会 第1回役員会(平成31年4月25日、函館市)出席(阿部、奥野、佐藤(理))

■第8回国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会(令和元年5月21日、札幌市)出席(奥野)

■北海道博物館協会第1回役員会(令和元年6月4日、札幌市)出席(阿部)

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会 総会・研修会(令和元年6月28日、八雲町)出席(阿部、奥野、佐藤(理))

■北海道博物館協会第2回役員会・第58回北海道博物館大会(令和元年7月16日、北見市)出席(阿部)

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会 第2回役員会(令和元年8月28日、江差町)出席(奥野)

■第9回国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会(令和元年10月11日、札幌市)出席(奥野)

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会 第3回役員会(令和元年11月27日、江差町)出席(阿部、奥野)

■デジタル・北海道アートミュージアム(仮称)構築に関する地域ヒアリング(令和2年1月16日、函館市)出席(奥野)

■第10回国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会(令和2年3月25日、白老町)出席(奥野)

■北海道博物館イチャルパ(令和2年2月17日、札幌)主席(阿部)

■第1回アイヌ遺骨等関係博物館等意見交換会(令和2年3月20日、札幌市)出席(奥野)

【後援】

■函館アイヌ協会主催「イチャルパ(先祖供養の儀式)」(令和元年10月26日)後援

資料利用・調査・掲載等

■考古資料(「動物土偶」等) 20件
 ■歴史資料(「箱館戦争図」等) 53件
 ■民族資料(「蝦夷錦」等) 32件
 ■美術資料(「アイヌ風俗十二ヶ月屏風」等) 19件
 ■自然資料(「ルリビタキ」) 1件
 ■民俗資料(「紙芝居」等) 4件

■博物館史資料 1件
 ■その他 2件
 合計 132件

博物館実習

今年度の博物館実習は、令和元年9月3日(火)～20日(金)まで実日数14日間で受け入れ、北海道大学水産学部2名、札幌大学1名の計3名が各分野の整理保存方法を学ぶとともに、北方民族資料館での展示実習などを行いました。



修復に向けて、明治時代から引き継がれてきた展示ケースのクリーニングなども行いました。

— 博物館短信 —

情報ブース終了

平成26年からはじまった公立はこだて未来大学との連携事業である情報ブース「未来」は、令和元年度で終了しました。この事業では、木村健一教授を中心に、多くの学生さんに参加していただき、展示ケースに入り函館の歴史・文化情報を得たり、展示体験ができる仕組みづくりに取り組みました。

取り組みについては、木村先生が「情報ブース「未来」プロジェクトにおける共同制作」(『触発するミュージアム』(あいり出版 2016)で報告し、卒業論文や修士論文の題材にも取り上げられています。木村先生をはじめ、学生の方々には、心よりお礼申し上げます。

1	「函館と31人の歴史群像」(平成26年10月5日～平成27年9月24日) 五稜郭築造150年と連動した人物紹介パネルとミニリトファスゾイレ(円筒広告塔)と古地図そしてタブレット端末を活用した展示と、資料写真をパラパラ漫画のように見ることが出来るフリップフォトブックを設置しました。
2	「パノラマで見る明治と今の函館」(平成27年10月3日～平成28年9月29日) 明治25年撮影のパノラマ写真と現在のパノラマ写真を並べて展示し、探索パネルで建物を探すという内容でした。
3	「掛ける、見る、しまう—掛け軸展示体験」 (平成28年10月8日～平成29年10月11日) 複製した掛け軸(夷酋列象2点・江指浜鯨漁之図(屏風)から3点)を実際に自分で取り扱えるハンズオン展示を行いました。

4	「屋号展示～屋号を知る・押す・歩く」 (平成29年10月14日～令和元年6月2日) 「屋号」をテーマにして、屋号マップや屋号サイトを作り、街歩きの一つにしてみよう企画でした。
5	「箱館戦争終結150」(令和元年6月12日～9月22日) 企画展に合わせて、旧幕府脱走軍・新政府軍の進攻図や組織図を作成し展示紹介しました。また、錦絵のパズルも製作しました。

国立アイヌ民族博物館との連携事業

国立アイヌ民族博物館から、展示用パネルのデータ提供と職員の派遣を受けて同館のPR事業を実施しました。パネル展（令和元年8月3日～19日：函館市中央図書館、令和元年9月13日～令和2年3月31日：函館市北方民族資料館）のほか、8月18日には、函館公園ファミリーフェスタに合わせて実施した函館博物館1号公開の際に、パネル展とムックリ製作演奏体験を、11月30日には、同館研究員宮地鼓氏による特別講演会「私たちの暮らし アイヌのきもの一文様・刺繍・素材をみる」（函館市北方民族資料館）を開催しました。



国立アイヌ民族博物館職員の解説を受ける来館者



ムックリの製作体験

ボランティア活動

■ 古文書調査ボランティア

令和元年度は、回漕業などを営んでいた森田家に関する資料458点を整理しました。

昨年整理した小川家文書については、約50点の解読作業を行いました。また、企画展「箱館戦争終結150」に関する資料の解読もおこなわれました。

■ 金子幸正作品整理ボランティア

令和元年11月27日から、グループ"KANNNNA"の市民有志5名の協力を得て、平成13年度に受入れた金子幸正作品の再整理作業を開始しました。令和元

年度の最終日となった2月12日までに5回の作業を行い、134点の作品を計測し、写真撮影等を行いました。



■ 清掃ボランティア

令和元年10月3日、北海道立五稜郭支援学校の協力により、今年度も展示室や収蔵庫内の清掃作業をおこないました。生徒の皆さんの勤勉かつ実直な作業のおかげで各館内がきれいになりました。この場を借りて同校生徒の皆さんと先生方に心より感謝申し上げます。

公式Facebookページを開設

平成31(2019)年3月31日より「市立函館博物館公式Facebookページ」を開設しました。

博物館施設の案内や、常設展・企画展の催し物の案内、展示解説セミナー、バックヤードツアー等講座の周知、修学旅行生等の団体入館や夏休み自由研究の様子など、博物館での出来事を紹介しました。徐々にフォロワー数も増えています。



開設した公式Facebookページ

博物館協議会を開催

令和元年度の博物館協議会を、令和元年10月16日（第1回）、令和2年3月27日（第2回）に開催しました。会議では、令和元年度の博物館事業および令和

2年度の事業計画など、博物館の運営について報告し、委員からは来年度事業にかかる質疑などが行われました。

アイヌの伝統儀礼イチャルパを実施

令和元年10月26日、当館が保管するアイヌの方々のご遺骨の慰霊のため、函館アイヌ協会主催による「イチャルパ（先祖供養の儀式）」が当館横の広場で実施されました。実施にあたって、当館も同協会に協力し、儀礼に使用する道具の事前準備や当日の会場設営などを行いました。



新型コロナウイルスによる臨時休館

令和2年3月2日から20日まで、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため臨時休館としました。

21日からは、感染防止に関する啓発掲示を行うとともに、「密閉」「密集」「密接」の「三密」に対する感染対策、アルコール除菌スプレアの設置、休憩室の閉鎖などの対策をとったうえで、通常開館しました。

令和2年度企画展開催予告

■ 企画展「津軽海峡北岸の縄文遺跡」(令和2年6月27日～9月30日)

史跡大船遺跡・史跡垣ノ島遺跡をふくむ「北海道・北東北の縄文遺跡群」が国の文化審議会世界文化遺産部会において、ユネスコ世界遺産の国内推薦

候補に正式に選定されました。これから世界遺産登録へ挑戦するこの時期に合わせ、函館に所在する史跡大船遺跡や史跡垣ノ島遺跡を中心に、道内の構成資産とこれまで函館市内で発掘・収集された秀逸な資料を展示します。



大船遺跡の竪穴住居

日の浜遺跡から出土した日の浜式土器(縄文晩期)



令和元年度職員構成等

館長	阿部貴樹	博物館協議会(委員11名)
	管理担当	学芸担当
	三浦正志(主査)	奥野進(主査、美術・民族)
	山本裕子	保科智治(歴史・民俗)
	萩野千春	佐藤理夫(自然)
	木村 侃(臨時)	尾崎 渉(自然)
		佐藤智雄(考古)
		山本泰子(嘱託)

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

天野武春(主査)

長谷川佳代子

佐藤珠江(嘱託)、福本衣栄(嘱託)

奥山麻央(嘱託)

SARANIP—サラニップ— No. 59

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP(サラニップ) —

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。